

# 持続的で収益性の高い温根別農業の確立

みんなで創ろう！地域の和と絆で繋ぐ未来のカタチ・・・

活動対象：土別市温根別町北線地区9戸

大豆の生育調査と個別巡回の結果、大豆の収量向上に必要な基本技術の重要性が理解された。市内他地域より低収であった大豆の収量は、基本技術の励行の実践により、収量差が縮まった。地域を支える担い手に対しては、それぞれが抱える課題に対して試験展示ほを設置し、栽培技術の向上を促した。

## 1 課題の背景

### 地域の現状

雪解けが遅く栽培期間が短い  
市内他地区と比較して低収

高齢化や離農等により  
担い手へ農地の急激な集積

### 地域の課題

大豆の低収要因の解明と  
安定生産の実現

栽培技術や経営能力  
向上に向けた育成支援

### 普及センターの活動

畑作物の安定生産

地域を支える  
担い手の育成

## 2 活動の経過

### 畑作物の安定生産（対象9戸）



対象全戸調査



畑作振興会現地研修会

対象全戸調査や個別巡回での情報交換



大豆の低収要因は、は種時期の遅れ、碎土性の低さ、排水性の不足が大きいことが判明



地域の畑作振興会で講習会を実施、調査結果を説明

### 地域を支える担い手の育成（対象3戸）



秋まき小麦施肥試験



飼料用とうもろこし  
導入農業者視察



飼料用とうもろこしほ場  
土壌断面調査

- ・ 秋まき小麦施肥試験 ……緩効性肥料を使用し、施肥回数の削減を検討した
- ・ 飼料用とうもろこし栽培試験 ……極早生の飼料用とうもろこしを作付けし、秋まき小麦の前作として輪作体系に組み込めるか確認し、同時に土壌改良効果の確認を行った

### 3 活動の成果

#### 畑作物の安定生産

7戸で基本技術をほぼ達成!

表1 基本技術調査項目の実施状況

区分	透排水性対策の実施		適正は種		土壌診断に基づく施肥		適切な中耕・除草剤使用		病害虫適期防除の実施		総合評価	
	心土破碎実施		適正は種量・は種時期		適正な土壌 pH		中耕・除草の適期実施		適期防除の実施		基本技術の実施	
農家	R2	R3	R2	R3	R2	R3	R2	R3	R2	R3	R2	R3
A									x	x	x	x
B												
C												
D												
E												
F												
G												
H												
I	-			x								x

: 全ほ場実施  
 : 一部実施  
 x : 未実施  
 : は種量7~9kg かつ、は種時期6/5まで  
 : いずれか実施  
 x : 上記以外  
 : pH6.0~6.5  
 : pH5.5~6.0  
 : pH6.5~7.0  
 x : 上記以外  
 : 着蕾期までに中耕実施、除草剤施用  
 : 着蕾期以降  
 x : 上記以外  
 : わい化病、マダツクイガ両方適期防除実施  
 : いずれか実施  
 x : 未実施  
 : 達成(全て)  
 : ほぼ達成(x無し)  
 x : 未達成(x1つ以上)

は種が遅れても砕土性が良ければ出芽する

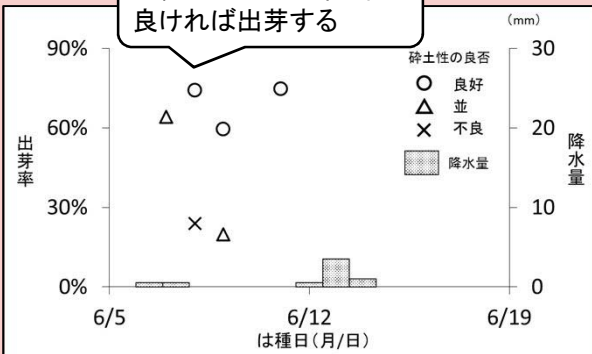


図1 は種遅れほ場における砕土性と出芽率 (砕土性の良否: ○→土塊16mm以下の割合80%以上、△→70%以上~80%未満、x→70%未満とした)

士別市平均との収量差は縮まった!

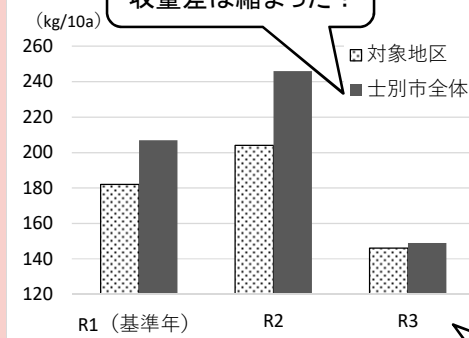


図2 大豆製品収量差の比較

大豆の収量のためには、適期は種や砕土性の確保が重要だと理解できた。砕土性・透排水性を確保する方法について、関心が高まったよ。

天候の影響で収量は低調...



#### 地域を支える担い手の育成



農業者D

緩効性肥料は施肥作業が省略できて、収量や歩留まりもイイね

今年の天候なら秋まき小麦の前作は可能だね。とうもろこしは土壌改良効果も大きそうだ。



農業者F



去年は自主課題を設定しなかったけど、今年は取り組むよ!

次年度の自主課題設定に向けた打ち合わせ

表2 飼料用とうもろこし試験ほ生育期節

品種	乳熟期	糊熟期	黄熟期
KD254(既存品種)	8/13	8/23	9/3
ハマミノルド(新品種)	8/10	8/19	8/30

### 4 今後の対応

#### 大豆の安定生産技術の確立

- 適期作業の実現に向けた作業体系の見直し (真空は種機による作業省力化の検討)
- 新規品目・緑肥等導入及びほ場透排水性改善技術導入支援

#### 若手農業者に対する栽培技術支援

- 自主課題調査の実施
- 課題報告会の開催